

加古川駅周辺再整備基本方針 【概要版】

令和7年8月 加古川市

第1章

加古川駅周辺再整備基本方針について

1-1 加古川駅周辺再整備基本方針に係る背景と目的

本市の都心であるJR加古川駅周辺地区（以下「加古川駅周辺」という。）においては、東播磨都市圏の核として、にぎわいのある魅力的な都市空間を形成するため、交通の利便性や保健・医療機能の充実した環境を生かしながら、商業や行政などの都市機能の集積や都心居住を推進するとともに、土地利用の高度化を図ることとしています。

しかしながら、駅南地区では、過去に市街地再開発事業で整備されたビルの老朽化や今日的なニーズとの不整合による施設の集客力低下、ひいては中心市街地全体の魅力低下などが懸念されます。また、駅北地区では、市所有地や民間の土地も含め、適切な高度利用が図られていないことなど、駅前の優れた立地にも関わらず駅南地区・駅北地区ともにまちとしての魅力の低下、にぎわい不足が課題となっています。

このことから、本市の顔である駅前において魅力ある都市空間の形成に向けて、「JR加古川駅周辺まちづくり（案）」「加古川駅周辺エリアビジョン（案）」を策定・公表し、地権者や「加古川駅周辺まちづくり検討会」の有識者、関係機関などの方々と今後の加古川駅周辺のまちづくりを議論してきたところです。

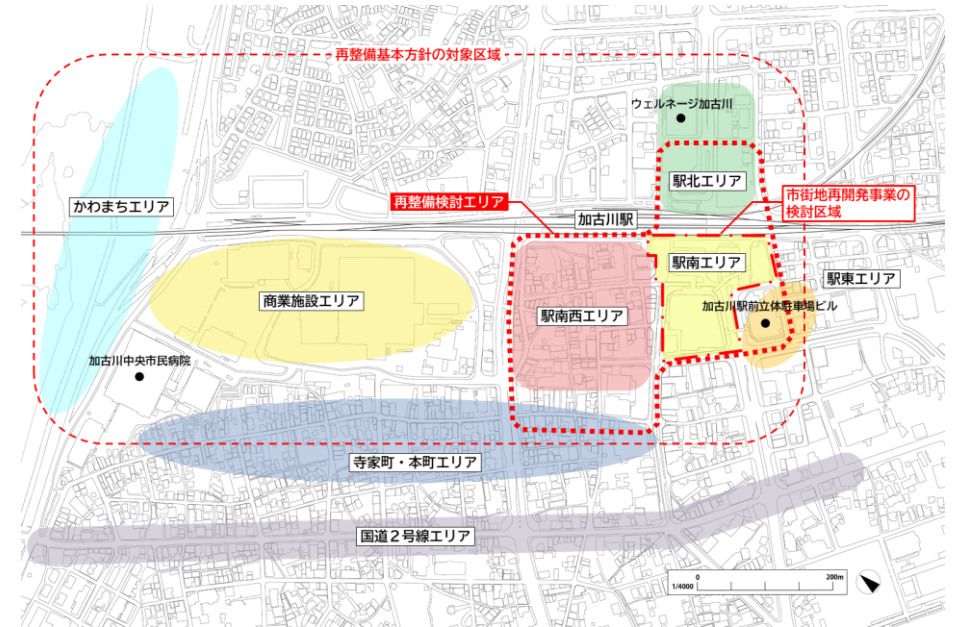
今後、再整備を具体化していくにあたっては、これらの構想・議論を踏まえ、「加古川駅周辺再整備基本方針（以下「本方針」という。）」を策定し、地権者や関係機関、周辺商店街など地域の方々と連携を図るとともに、多くの市民の皆さんからの理解・共感を得ることが重要であることから、本方針を公表するものです。

今後は本方針のもと、駅周辺再整備の具体化に向けて、「加古川駅周辺再整備基本計画」（以下「基本計画」という。）の策定に関する検討を進めます。

1-2 再整備基本方針の対象区域

加古川駅を中心に駅南エリアや駅北エリア、駅東エリア、駅南西エリア、加古川駅から河川敷をつなぐ商業施設エリアとかわまちエリアを含む区域とします。

本方針の対象区域のうち、駅前における都市空間の形成に向けて優先的に再整備を検討していくべきエリアを「再整備検討エリア」に位置づけます。また、駅南エリアを、再整備の中心として駅前広場と再開発施設の一体的な再開発事業について検討していくべき区域として「市街地再開発事業の検討区域」に位置づけ



1-4 社会動向

以下の社会動向に対応した再整備の検討を進めていきます。

居心地が良く歩きたくなるまちなか

市街地整備2.0

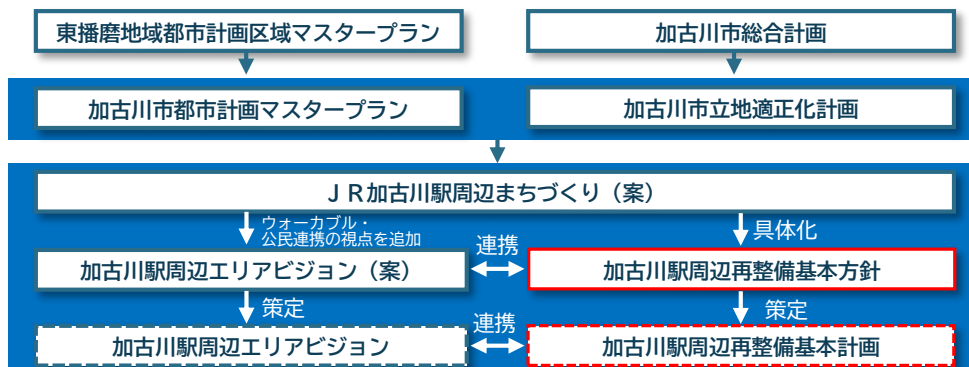
ウェルビーイング

公民連携

駅まち空間

防災まちづくり

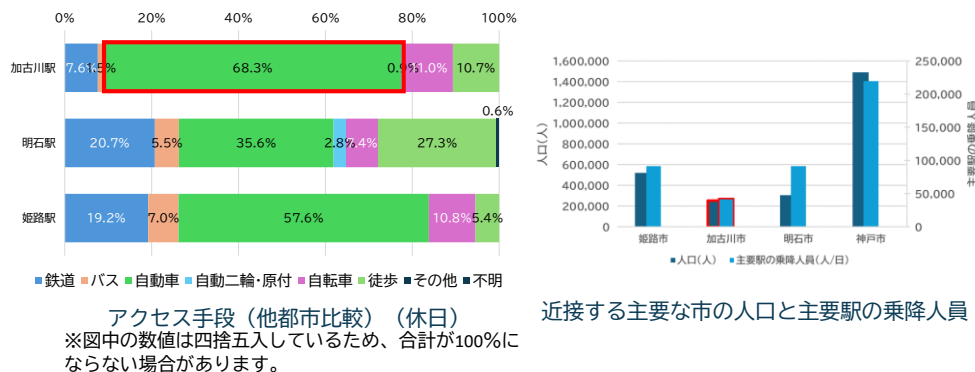
1-3 上位計画等の位置づけ



第2章 現状と課題、市民ニーズ

2-1 地域の現状

- ① 市全体においては人口減少が進む中、直近のデータにおいては加古川駅周辺の人口は増加傾向にあり、なおかつ30代・40代の子育て世代の比率が高いことから、選ばれるまちのポテンシャルを秘めています。
- ② 交通結節機能として多くの人が往来する広域からの受け皿となっています。
- ③ 加古川駅へのアクセス手段は明石駅、姫路駅に比べ、平日・休日ともに鉄道・バス利用が少なく、自動車利用が多い状況です。
- ④ 加古川市は、人口・主要駅の乗降人員数いずれも近接する姫路市、明石市、神戸市より低く、相対的に民間投資を呼び込みにくい状況にあります。
- ⑤ 民間事業者への需要調査において、加古川駅前、商業機能中心の施設構成では厳しい見方の意見が多く、需要に応じたボリューム設定や公的な施設との複合によって滞在機会を増やし、施設の付加価値を高めるための検討が必要であるとの意見がありました。また、店舗の更新のしやすさにも配慮した所有・運営の検討も課題として挙げられています。

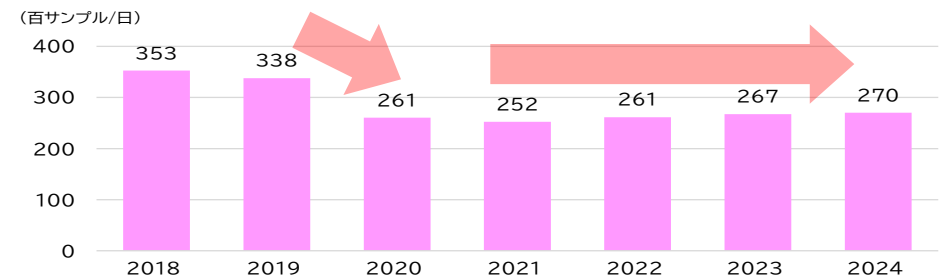
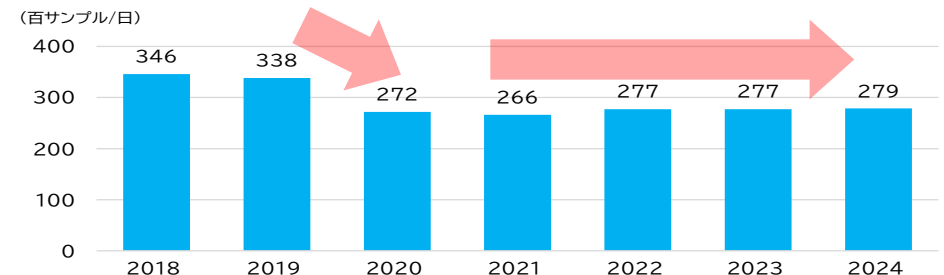


2-2 市民の想い・ニーズの把握

- ① アンケート／加古川駅周辺に期待するキーワード
飲食・買い物／憩い／こども／あそび／文化・芸術／家族や友人との時間
- ② ヒアリングから見たキーワード
あそび／おしゃべり／交流／こども／居心地／学び／気軽さ／コミュニティ／非日常／多世代
- ③ 駅前広場の社会実験結果
・前年と比較すると滞在時間が増加し、駅前広場における滞在空間としての利用者ニーズを確認することができました。
・若者の新たな居場所となっていたほか、キッズスペースやビジネスマンのワークスペースとして活用されるなど、多世代に受け入れられる空間としての機能も確認することができました。
⇒駅前の魅力的なにぎわい・滞在・滞留空間及び多様な主体が使いこなせる公共空間の再構築が求められています。

2-1 / 2-4 地域の現状／課題・市民ニーズ等の整理

- ① 2018年以降の来訪者推移については、平日・休日平均ともに2020年に減少し、それ以降横ばいとなっています。
- ② 加古川駅周辺の立寄り施設数については、目的地が明確な利用者が多く、加古川駅周辺では1ヶ所のための立ち寄りが一般的になっていると考えられ、駅からの徒歩圏内で複数の目的を持って来訪するケースが少ないです。
- ③ カピル21ビル及びサンライズ加古川ビルの老朽化・陳腐化により駅前拠点の魅力が低下しています。
- ④ 社会経済環境の変化に対応する商業規模の最適化、商業機能の更新を図りやすく持続可能性の高い仕組みなどの再構築が必要です。

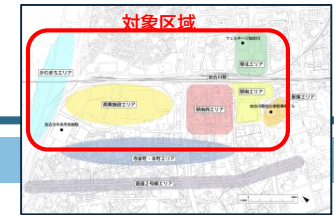


2-3 本市の政策課題

- ① 中心市街地の活性化（2-1 / 2-4のとおり）
- ② ウェルビーイング
・幸福度との相関が高い因子は、「住宅環境」「地域行政」「公共空間」「地域とのつながり」「自己効力感」「健康状態」「文化・芸術」となっており、より市民の幸福感につながりやすい分野として、加古川駅周辺のまちづくりや再整備で更新・導入する機能の参考とします。
- ③ 公共施設のマネジメント
・公共施設の「統廃合・複合化」
・周辺の施設との複合化等による全体最適化

第3章 再整備で目指すまちの将来像

3-1 まちづくりの方向性（加古川駅から加古川河川敷までのエリアについて）



方向性1 居心地とひとの活動を大切に、加古川らしさを活かしたひと中心の空間づくり

① 車中心の都市空間からひと中心の都市空間への進化

- ・車中心の都市空間から、多彩な活動が生まれる人中心の都市空間への進化
- ・ローカルな価値や地域・人のつながりを重視し、ひとりひとりの自己実現やチャレンジにつながるよう、様々な加古川駅周辺の公共空間を再構築
- ・車社会であることを前提に、車での来訪を排除するのではなく、歩車が共存したひと中心の空間づくり

② 地域ブランドの向上に資する景観デザインの形成

- ・ひとの活動に加えて、自然や文化といった本市の特徴を活かした景観デザインを形成し、本市の玄関口にふさわしい駅前空間を創造



花園町通り(愛媛県松山市)(出典:松山市)



「加古川駅サイト×満月ワインガーデン」の様子

※出典: 松山市ウェブサイト (<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/gairoseibi.html>)

方向性2 時代や市民のニーズに対応し、次世代につなぐ魅力的な拠点づくり

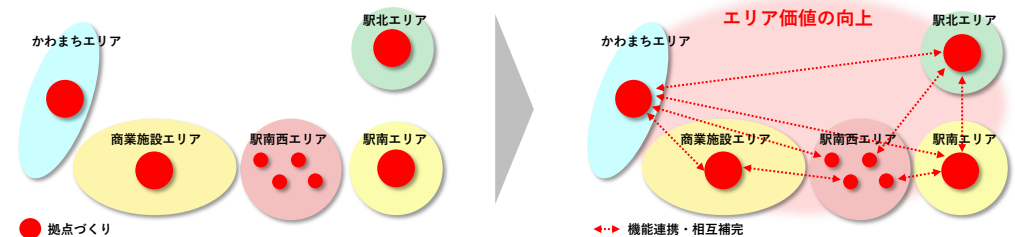
① 各エリアの特性を活かした拠点づくり

- ・建替えやエリアリノベーションなど、地域特性を活かした大・小の拠点づくりにより、各エリアの魅力や周辺エリアとの接続性を向上
- ・機能の相互補完やエリア間の連携による加古川駅周辺のエリア価値を向上

② 駅前ビルの建替え及び機能間の連携・融合を図った魅力的な拠点づくり

③ 駅前の立地特性や市民ニーズを踏まえた都市機能の更新・導入

- ・カピル21ビルやサンライズ加古川ビルの建替えなどによる、滞在へのつながり、かつ機能間の連携・融合を図りやすい拠点づくり
- ・駅や駅前広場、民間施設などの機能が調和した空間の創出
- ・多彩な活動、多様な滞在が生まれる駅前広場の再編



大・小の拠点づくりと拠点間の連携イメージ

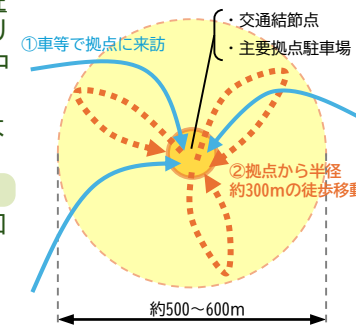
方向性3 2つのウォカブル空間の形成と一体性の推進

① 交通結節点や主要拠点駐車場、各拠点をコアとしたウォカブル空間の形成

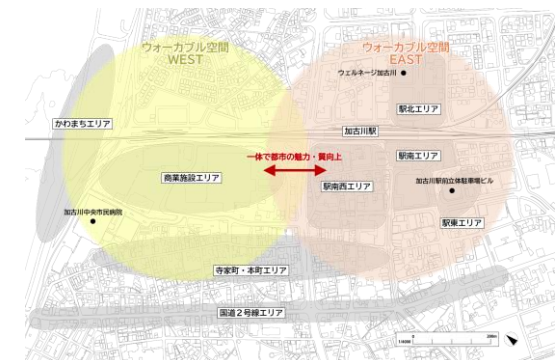
- ・ひとが回遊・活動するウォカブル空間の範囲は、交通結節点・主要拠点駐車場・各拠点をコアに直径500m～600m圏を基本単位とし、再整備検討エリアを中心とした「ウォカブル空間EAST」とかわまち・商業施設エリアを中心とした「ウォカブル空間WEST」を設定
- ・拠点間の連携に加えて、官民のパブリックスペースの利活用が進むことにより、ウォカブル空間内での回遊を促進

② パブリックスペースの集積と連担などによるウォカブル空間のつながり

- ・パブリックスペースが集積・連担することで、多彩な活動、多様な滞在に加えて、ウォカブル空間をつなぐ回遊性を創出
- ・2つのウォカブル空間をつなぐソフト施策（公民連携によるイベントなど）やハード整備（道路・公園の再構築など）により、2つのウォカブル空間において1日過ごしたくなる空間を創出



ウォカブル空間の考え方



加古川駅周辺におけるウォカブル空間の考え方

第3章 再整備で目指すまちの将来像

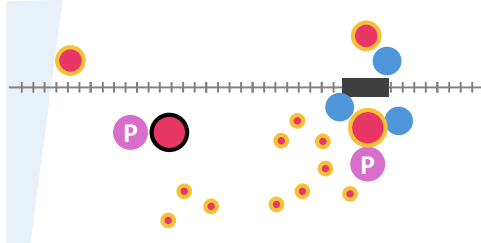
3-1 まちづくりの方向性（加古川駅から河川敷までのエリアについて）

まちづくりの方向性を踏まえた将来イメージ

～ 1日過ごしたくなる加古川駅周辺へ ～

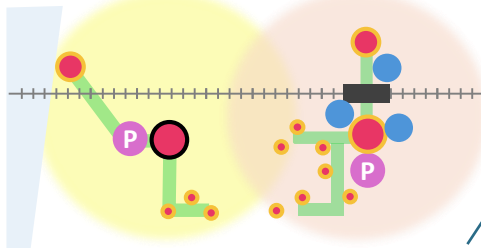
地域特性を活かした拠点づくり

- ・既存拠点を回遊の起点に
- ・地域特性を活かした大・小の拠点づくり
- ・主要拠点駐車場の設定



2つのウォーカブル空間の形成

- ・主要拠点駐車場や各拠点から半径300m以内を、それぞれウォーカブル空間として位置づけ
- ・パブリックスペースの連続性などによりウォーカブル空間内での回遊を促進



かわまちづくり



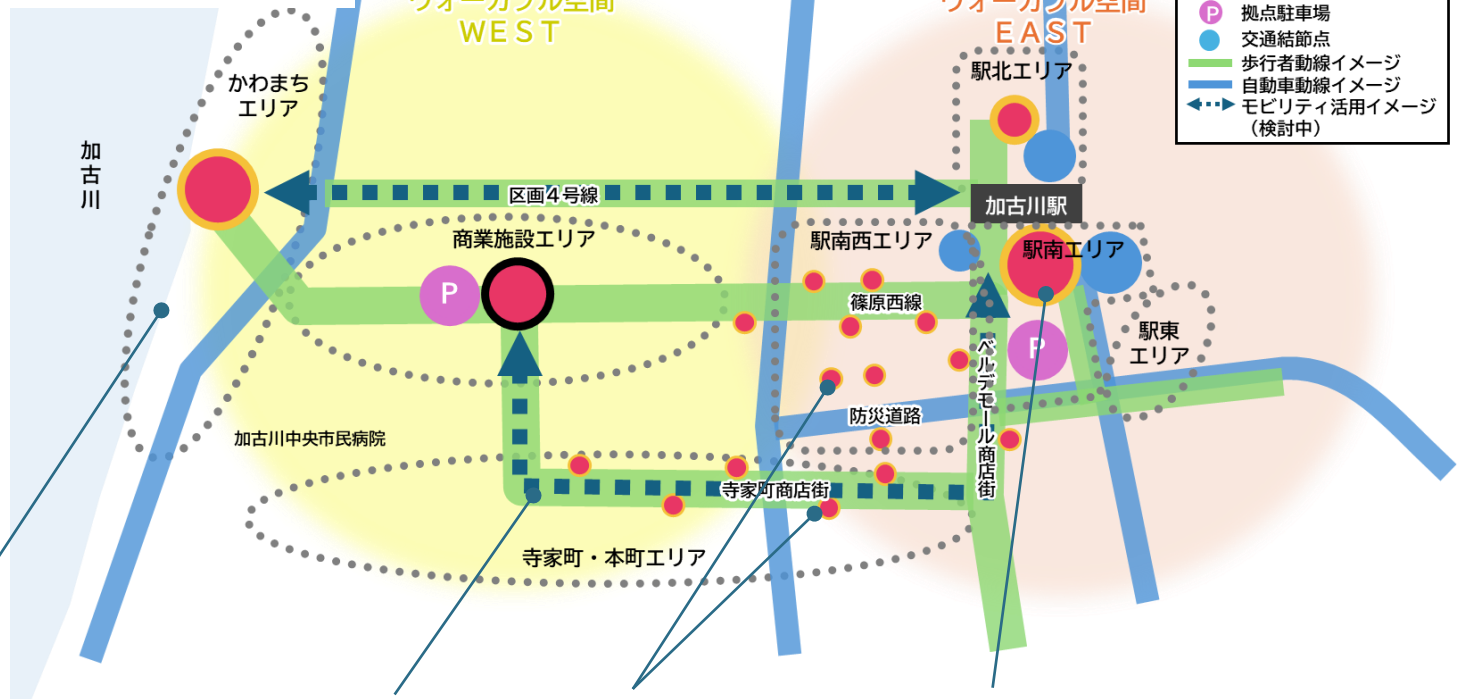
市民の憩いやスポーツ・レジャーの場、来訪者との交流の場として、新たな日常空間を創造

（かわまちエリア）



加古川駅周辺の一体性の推進

パブリックスペースの集積・連担やエリアをつなぐソフト施策・ハード整備、モビリティ活用などにより
2つのウォーカブル空間の一体性を推進



- 新規拠点
- 既存拠点
- 拠点駐車場
- 交通結節点
- 歩行者動線イメージ
- 自動車動線イメージ
- ◀▶▶▶ モビリティ活用イメージ（検討中）

エリアをつなぐイベント



地先空間を活用したマーケットの開催や交流の場の創出により、地域コミュニティを醸成（寺家町・本町エリア）

エリアリノベーション



空き店舗などの有効活用や多種多様な店舗の誘導（寺家町・本町エリア・駅南西エリア）

新たなまちの拠点



『居場所』『学び』『ワクワク』を感じ、加古川らしい、ひとの顔・つながりが見える拠点（駅南エリア）

モビリティ活用



拠点間の回遊を支援するためのモビリティの活用方法を検討

※1 出典：国土交通省ウェブサイト（https://www.mlit.go.jp/toshi/walkable/pdf/07aichi_renjaku_sn.pdf）
 ※2 出典：国土交通省ウェブサイト（<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/content/001731484.pdf>）

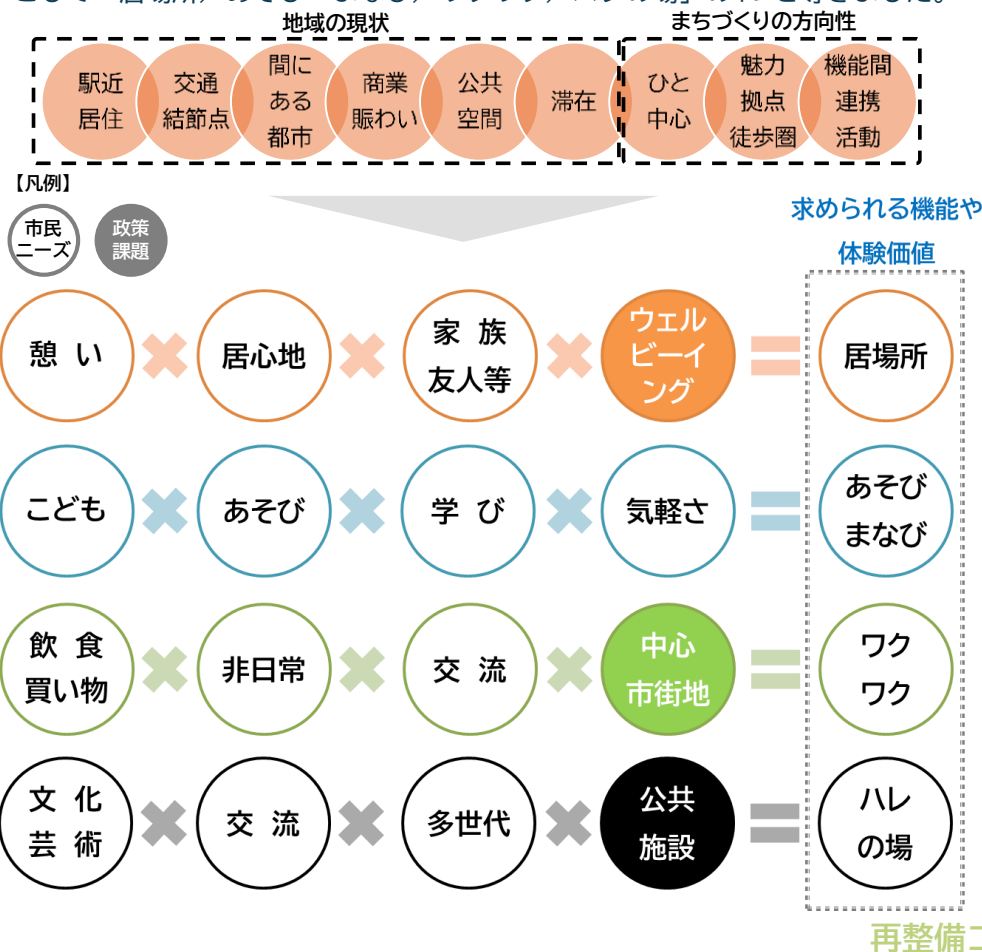
第3章 再整備で目指すまちの未来像

3-2 コンセプト・導入機能の考え方（再整備検討エリアについて）



求められる機能や体験価値

地域の現状やまちづくりの方向性、アンケートなどから得られたキーワード、政策課題をもとに、再整備検討エリアのコンセプトと求められる機能、体験価値として「居場所／あそび・まなび／ワクワク／ハレの場」の4つを導きました。



具体的な導入機能

求められる機能や再整備のコンセプトを踏まえ、再整備により以下の機能の導入を図ります。なお、加古川駅周辺の生活利便性を向上する機能を基本として、再整備で重要となる機能や体験価値を満たす公共機能を複合させることで、加古川駅周辺の多様なニーズに応える再整備を目指します。

【導入機能】

●公共機能

- ・学びと憩いが融合する図書館
- ・幅広い世代が学び、楽しめる子育てプラザ
- ・市民のハレ舞台となるホール
- ・多様なニーズに応え地域とつながる貸館

●交通結節機能

- ・駅前広場
- ・駐車場

●民間機能

- ・商業・サービス

など



居住機能

JR加古川駅周辺まちづくり（案）では「駅前居住の推進」が示されていますが、市街地再開発事業においては事業完了後の商業環境の変化などに柔軟に対応することを想定し、居住機能は整備せず、公共機能や商業・サービス機能などを適切な規模で整備することで、施設の運営やリニューアル建替えにおける制約を少なくする方針とします。一方で、事業成立性を向上するため、国の補助率高上げ制度の活用を検討します。なお、市街地再開発事業などにより、駅周辺の魅力や利便性などが向上し、周辺の住宅需要が高まることで、市街地再開発事業の検討区域外において民間事業者による居住機能の整備が進められることが期待されます。これにより駅周辺の低未利用地の有効活用とともに、都市のスポンジ化対策を促します。

再整備により既存の機能に加えて、更新・新規導入する機能が組み合わせることで多様な都市機能の集積を図ります。

さらに、“まち”“ひと”“機能”をつなぐパブリックスペース（※）を各機能との中心的役割として配置します。

※公民の敷地を問わないソト（屋外）空間であり、人々の居場所となり、楽しく、アクティビティの生まれる、誰もが使える自由空間。

（参考／（一社）ソトノバHP）



世界最高の『居場所』『まなび』『ワクワク』を届けたい

～加古川らしい、ひとの顔・ひとのつながりがみえるまち～

第3章 再整備で目指すまちの将来像

3-3 再整備検討エリアの将来像

機能配置の方針

●みんなのひろばを核とした機能配置

駅・駅前広場・周辺市街地を一体的にとらえる「駅まち空間」の理念と併せて、まちの多様な活動・用途をつなげる「みんなのひろば(※)」を各都市機能の中心に配置することで、ひとの活動を大切に、加古川らしさを活かしたひと中心の機能配置を図ります(※右頁以降参照)。

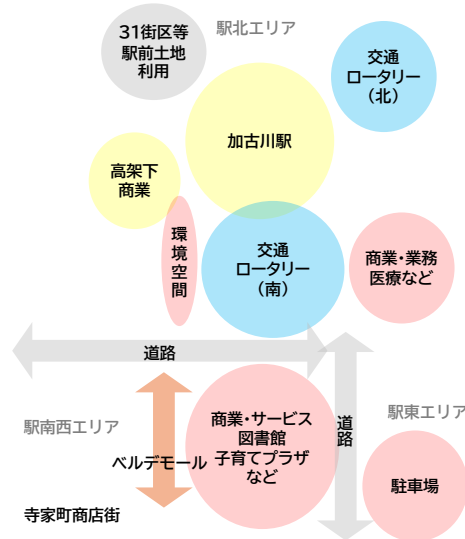
●商業・図書館・子育てプラザ・ホールなどの複合機能

「みんなのひろば」を中心に「商業～図書館～子育てプラザ～ホール」などを複合的に整備し、機能を連携することで、多彩な活動、多様な滞在を創出します。

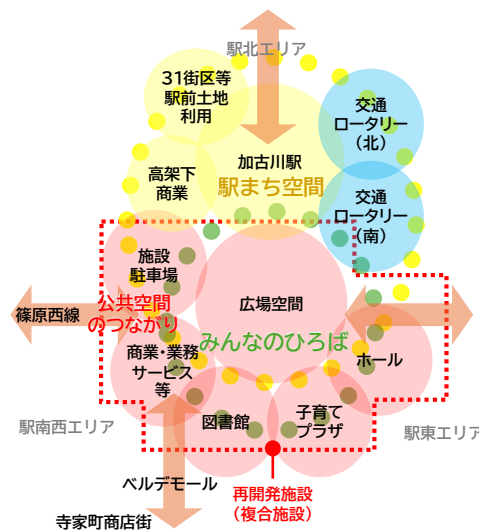
●駅前広場(交通ロータリー)の再編及び交通結節機能の強化・改善

公共交通利用者の利便性を確保するとともに、自家用車での来訪も前提に、施設駐車場を駅近くに整備することで、駐車場を起点としたまちへの回遊や駅へのアクセス性向上など交通結節機能の強化・改善を図ります。

現状 各施設・用途が点在／車中心の都市空間



将来像 多様な活動・用途をつなげる機能配置



駅まち空間

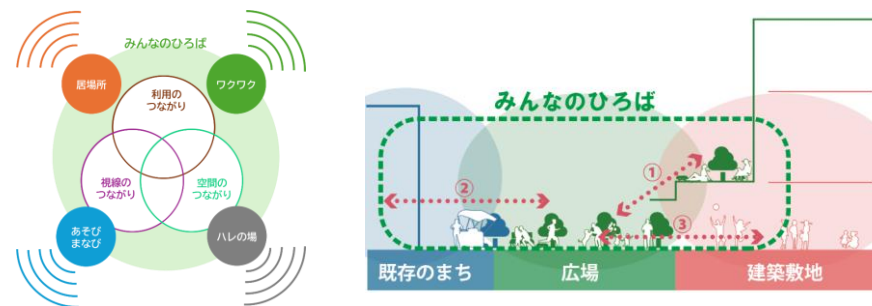
「駅まち空間」とは、駅・駅前広場・周辺市街地を一体的にとらえ、利便性・快適性・安全性・地域性の向上を目指す空間のことです。本方針においては、加古川駅・高架下店舗・駅前広場・駅北エリア・駅南エリアなどを「駅まち空間」ととらえ、空間や機能のデザインなどについて一体的かつ柔軟に取り組むことで、将来の魅力的なまちづくりの中核を担う空間の基盤とします。

“みんなのひろば”の考え方

●みんなのひろばとは

広場空間を中心に、まちの多様な活動・用途をつなげるパブリックスペースや中間領域を「みんなのひろば」とします。みんなのひろばは、再整備における「居場所」「あそび・まなび」「ワクワク」「ハレの場」の体験価値を生み、それらをまちに発信する拠点となります。

その実現に向けて、「①視線のつながり」「②利用のつながり」「③空間のつながり」の3つのつながりを整備方針とします。



●みんなのひろばの整備方針

①視線のつながり

- 壁をガラス張りにして立体的に別の場所も見れるような空間整備により、利用者の安心感を生むとともに、利用者間の新たな交流・共創につながります。
- 篠原西線やベルデモール商店街など、周辺のまちへのつながりを意識した空間とすることによって、みんなのひろば周辺にも足を運びやすくします。

②利用のつながり

- 「商業～図書館～子育てプラザ～ホール」など複合した用途でありながら、用途間の境界をなくし、思い思いに使える中間領域をつくることで、お互いの利用者が自由に行き交う空間を創出します。
- 例えば図書館の本を自由に読めるようにするなど、用途間で連携する仕組みをつくることで、自由に過ごしやすい空間づくりを目指します。

③空間のつながり

- 建物内外を一体的に活用できるなど、可変性のある特徴的な空間整備によって、ここでしか得られない体験価値を創出します。
- 敷地境界をシームレスにして周辺のまちとのスケールを合わせるなど、周辺のまちと同じデザインコードで空間整備を行うことによって、自然に立ち寄りたくなる空間とします。



駅前コンサート
(福井市ノビテラス)
提供:北陸高等学校



広場で図書館の本を読む
(こども本の森神戸)
掲載元:Feel KOBE神戸公式観光サイト



ホールと半屋外広場の一体利用
(釜石市民ホールTETTO)
提供:aat+ヨコヅミマコト建築設計事務所

第3章 再整備で目指すまちの将来像

3-3 再整備検討エリアの将来像

“みんなのひろば”の考え方（期待される効果）

ウェルビーイングの実感 滞在時間の増加



半屋外空間の居場所（茨木市／おにくる）

駅前商業の活性化／民間投資の促進



マーケットの様子※（富山市／グランドプラザ）

駅周辺全体の回遊性向上



かわのまちマーケットの様子（加古川市）

共創文化・コミュニティの醸成



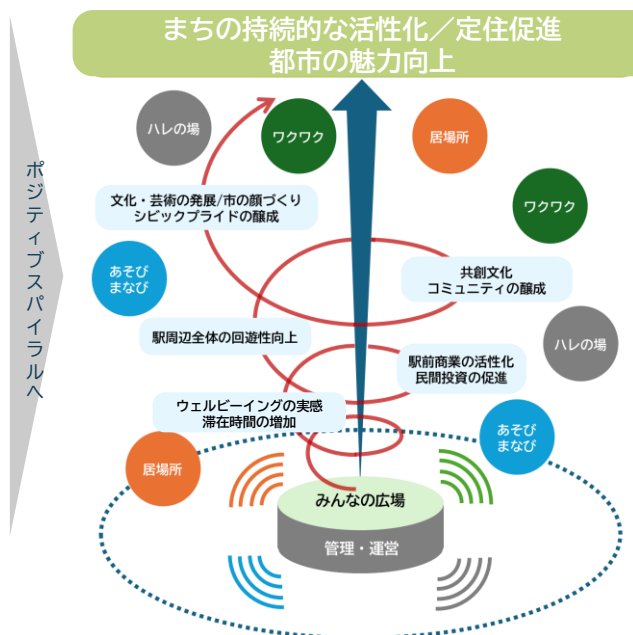
©奥山厚志

ホールと半屋外広場を一体利用した活動（金石市民ホールTETTO）
提供：aat+ヨコソマコト建築設計事務所

文化・芸術の発展／市の顔づくり シビックプライドの醸成



駅前コンサート（福井市／ハピテラス）
提供：北陸高等学校



第3章 再整備で目指すまちの将来像

3-3 再整備検討エリアの将来像

土地利用ゾーニング

●再開発施設（複合施設）

- 再開発施設（複合施設）は、まちの多様な活動・用途をつなげる「みんなのひろば」を中心に「商業・サービス施設」「図書館」「子育てプラザ」「ホール」などの機能により構成します。
- 市街地再開発事業の検討区域内の建物を一つの再開発施設に集約し、効率的な建築計画・施設運営とともに機能間連携しやすい施設づくりを目指します。また、再開発施設をより駅に近い配置とすることで、駅や高架下店舗などと一体的な駅まち空間の創出を目指します。
- 「みんなのひろば」を中心に構成する再開発施設を駅、駅前広場、高架下店舗からベルデモール商店街、篠原西線の連続性に配慮して整備することで、ひと中心の「駅まち空間」を創出します。
- 再開発施設内に駐車場を設けることで、再開発施設や駅利用者の利便性を高めるだけでなく、周辺のまちを回遊するウォーカブル空間の拠点とします。

●駅前広場（交通ロータリー）

- 加古川駅南北に駅前広場を引き続き設け、公共交通及び駅利用の一般車も含めた交通結節点として必要となる機能を確保します。
- 駅前広場（交通ロータリー（南））は、交通結節機能を確保しながら、再開発施設や高架下店舗などの商業機能、「みんなのひろば」との一体的な再編により、公共・商業機能とよりつながり、まちへのにぎわいに波及するなど、より機能が連続する、質の高い広場空間に再編します。
- 駅前広場（交通ロータリー（北））は、地域公共交通プランと整合を図ったうえで、交通結節機能の充実につながる広場空間への再編を検討します。

検討課題

●地権者の合意形成と事業スキームの決定

●概算事業費の算定と事業スケジュールの検討

- 施設整備や商業施設運営などの検討
- 身の丈に合った「低容積型」施設の検討

●駐車場や駅前広場（交通ロータリー）、周辺道路の交通処理などの一体的な検討

- 再開発施設の駐車場や駅前広場の整備計画、周辺道路の交通処理などの一体的な検討
- 交通結節機能の充実につながる駅前広場（交通ロータリー（北））の再編検討

●31街区及び駐車場ビルの土地利用

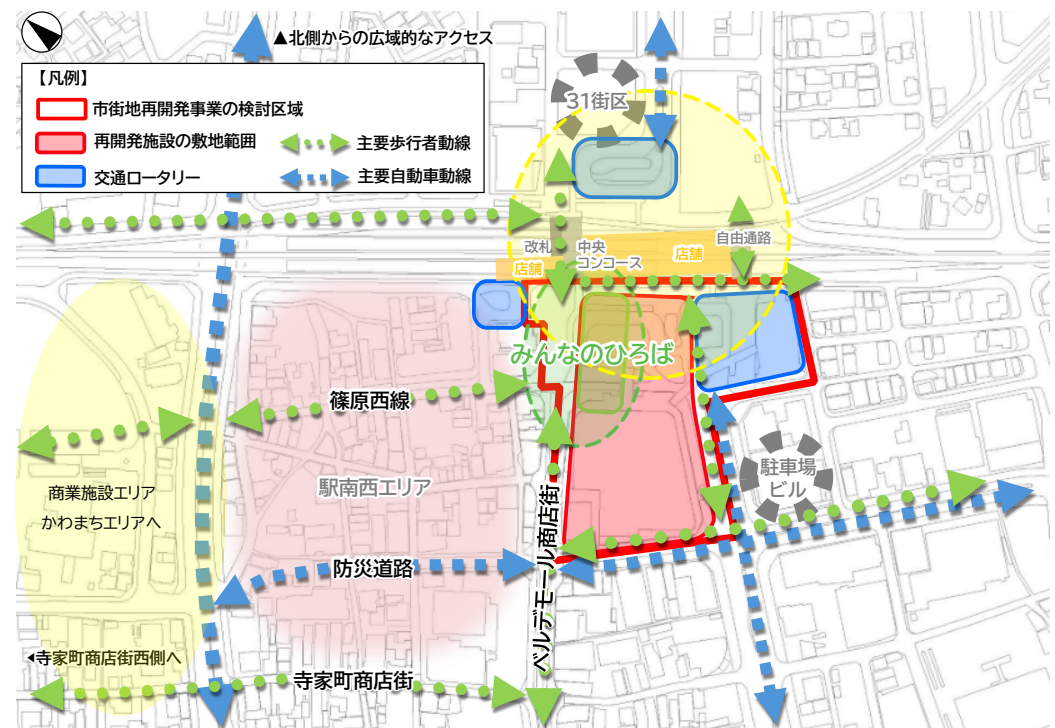
- 再開発施設の整備計画や駐車場需要の動向、周辺道路の交通処理の方法などに応じて、31街区及び駐車場ビルにおける土地利用の方向性を検討

●管理運営・エリアマネジメント体制の検討

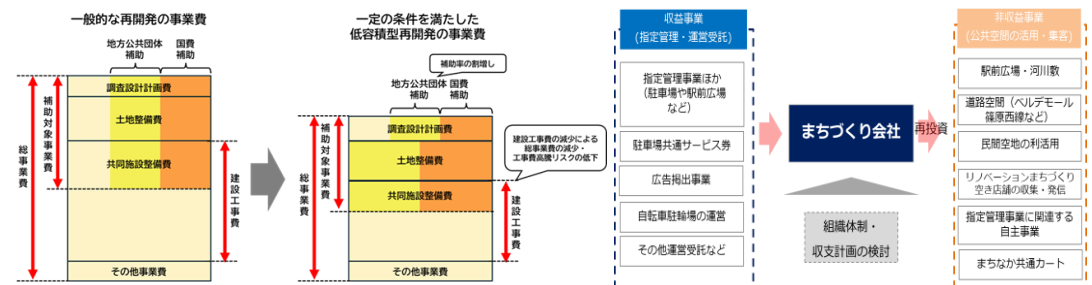
- 再開発施設やみんなのひろばなどパブリックスペースにおける管理運営手法の検討
- まちづくり会社など多様な主体によるエリアマネジメント体制・取組の検討

●駅南西エリアの都市計画／まちなかウォーカブルの推進

- 駅南西エリアの交通体系の検討
- 篠原西線など都市計画道路の見直し
- 空き店舗の有効活用やエリアリノベーションの取組など、面的な界限性を活かしたまちづくりの検討 など



土地利用のゾーニング図



低容積型のイメージ

持続可能なエリアマネジメントのイメージ

第3章 再整備で目指すまちの未来像

3-3 再整備検討エリアの未来像

公共施設における導入機能についての考え方

新しい図書館のコンセプト

学び、憩い、自然体で過ごすまちなかりビング

-再整備の方向性-

●「学び」を深め、広げる場

静かな読書や学習エリアを引き続き充実させるとともに、これまで以上に多様な学びのスタイルに対応します。

●気軽に訪れやすい図書館

リラックスできる空間や、会話が可能なゾーン、多世代が交流できるスペースなど、多様な利用者が自分らしく過ごせる環境を整備します。

●親子で楽しめる図書館

こどもと一緒に学びや遊びを楽しめる親子連れ向けのゾーンを充実させ、子育て機能と連携した絵本や児童向けアクティビティを提供します。

●地域と若年層をつなぐ場

若年層を中心に多くの利用者が集まる図書館として、地域全体の学びの場としての役割を強化し、地域と若年層をつなぐ新たな機会を創出します。

●利用目的に応じたゾーニング

静けさを求める人と交流を求める人が共存できるよう、エリアごとに明確なゾーニングを実施します。

読書や勉強のための自習スペース



シリウス(神奈川県)『読書室』

地域全体の学びと交流拠点



山口市産業交流拠点(山口県)

新しい子育てプラザのコンセプト

親子でつながり、学び、共に育つ場所

-再整備の方向性-

●親子が気軽に集える「サードプレイス」

未就学児や小学生のこどもとその親を主な対象とし、親子がともに遊び、リラックスし、学び合える空間を提供します。親子が安心して過ごせる環境を整え、多世代の交流を促進する場を目指します。

●未就学児から小学生まで楽しめる「こども広場」

親子と一緒に遊び、リラックスできる多機能な広場を設置します。既存のプレイルームを東加古川子育てプラザへ統合し、こども広場の機能を拡充することで、さまざまなニーズに対応できる遊び場を提供します。

●一時預かり機能の充実

複合施設内の利用者に対応するため、一時預かり機能を拡充し、親子のライフスタイルに寄り添います。

●子育て相談と交流を支える場

子育てに関する相談機能を引き続き提供するとともに、地域の支援ネットワークと連携しながら、子育て世代を支える幅広いサポートを提供します。

●親子向けイベントの充実

図書館をはじめとした複合施設内の多機能と連携し、親子向けのイベントやアクティビティを充実させます。

未就学児と小学生が楽しめるこども広場



ボーネルンド

他機能と連携した地域イベント開催



アンフォーレ(愛知県)

新しいホールのコンセプト

市民発表や地域活動の核となり、多目的利用を可能にする駅前文化ホール

-再整備の方向性-

●地域文化活動の拠点

市民が主体となって活用できる場を提供し、地域文化の振興と自己表現の機会を創出します。

●市民のハレ舞台

興行を主目的とせず、市民活動や地域団体の発表、学びの場として幅広く活用するホールを目指します。

●地域特性を活かした連携

駅前という利便性の高い立地を活かし、広場空間や図書館、子育てプラザ、周辺商業などと連携することで、多世代が文化活動や交流を楽しめる場を提供します。

●多機能かつ柔軟な設計

芸術鑑賞会・文化祭など利用人数の多いものから、小規模な発表会・講演会まで対応できるよう、1,000席程度の中規模ホールや300席程度の小ホールを設置します。また、可動式設備を活用した柔軟な空間運用を検討します。

市民演劇や音楽の公演



北九州芸術劇場(福岡県)
『市民参加音楽公演「私の青い鳥」』

広場空間との連携イベント



茅野市民会館(長野県)『クラフトフェス』

新しい貸館機能のコンセプト

誰もが利用したくなる多目的空間

-再整備の方向性-

●貸館機能の集約と多目的利用の促進

稼働率の低い市民交流ひろば、まちづくりセンター、市民会館の貸館機能を集約し、会議や研修、文化活動、地域イベントなど、多様なニーズに応える空間を提供します。

●多用途利用を想定した柔軟な設計

特定の用途に限定せず、柔軟に利用できる部屋を設けます。例えば、楽屋はホールに付随する基本機能として確保しつつ、練習室や会議室としても活用できる多用途な機能に対応します。

●他機能連携による相乗効果の創出

図書館、子育てプラザ、ホールなど複合施設内の他機能が貸館機能を活用することで、より多様なイベントやアクティビティを提供します。

会議や地域イベントなど利用ニーズに応じた多用途利用



アンフォーレ(愛知県)

その他

●国際交流センターや男女共同参画センターの配置

他の公共機能(ホールや貸館機能、図書館など)と連携することで、多様なテーマや形式のイベントを実現し、市民ニーズに応じた情報提供や学びの機会を拡充します。

第3章 再整備で目指すまちの将来像

3-3 再整備検討エリアの将来像

BEFORE



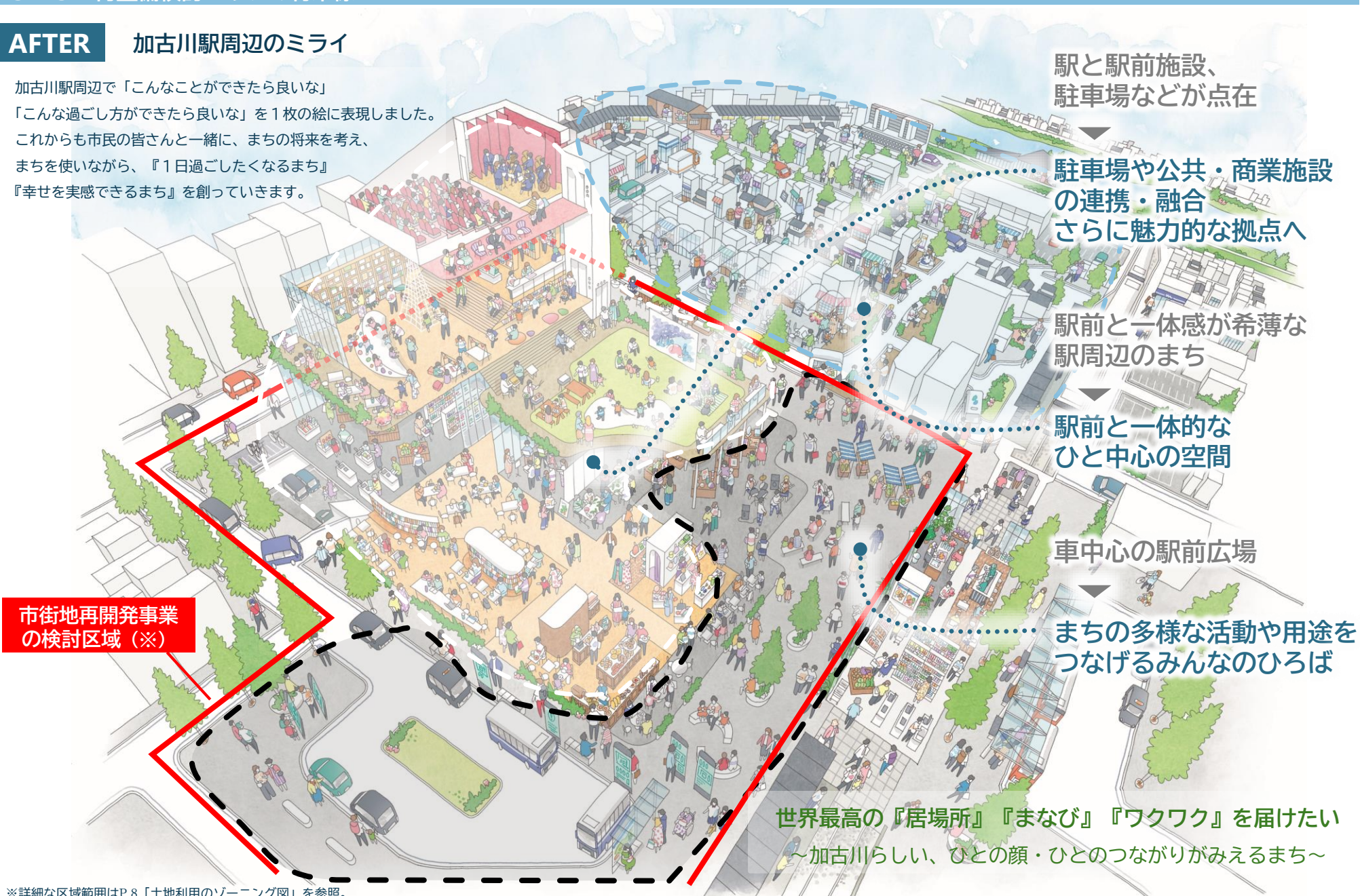
※詳細な区域範囲はP.8「土地利用のゾーニング図」を参照。

第3章 再整備で目指すまちの将来像

3-3 再整備検討エリアの将来像

AFTER 加古川駅周辺のミライ

加古川駅周辺で「こんなことができればいいな」
「こんな過ごし方ができればいいな」を1枚の絵に表現しました。
これからも市民の皆さんと一緒に、まちの将来を考え、
まちを使いながら、『1日過ごしたくなるまち』
『幸せを実感できるまち』を創っていきます。



※詳細な区域範囲はP.8「土地利用のゾーニング図」を参照。

4-1 今後の進め方

本方針で示す将来像の実現へ向けては、駅前空間を一体的にとらえて再開発施設や駅前広場などが連携した機能配置、空間の形成が重要となります。今後も、加古川駅周辺まちづくり検討会、地権者を主体とする検討組織（加古川駅前地区まちづくり協議会）などでの意見交換・検討をはじめ、道路などの公共空間を活用した社会実験やワークショップなどで得られた市民・使い手の目線を基本計画に反映していきます。

また、再整備後の持続的なまちづくりを目指し、様々な視点からの意見を踏まえて基本計画の検討を進め、そして、その後パブリックコメントなどを経て、基本計画を策定し、事業の具体化へ向けてさらなる検討を進めることとなります。

※基本計画における構成等については、同計画を策定する中で具体的に検討します。また、今後の進め方は、基本計画の検討の中で変わる可能性があります。

